

言語発達と物語文の時制

・日本語を母語とする子どもの場合・

稲葉みどり

愛知教育大学日本語教育講座

mdinaba@aichi-edu.ac.jp

1. はじめに

一般に物語は現在時制、または、過去時制で語られ、物語に一定の時間軸が設定されていることは、統括性(coherency)のある物語文の一つの条件と考えられている。本研究では、物語談話の構成要素の中で、時制、時間軸、時制転換に着目し、第一言語能力の発達とともに、子どもがどのように統括性のある物語談話を構成していくかを考察する。ここでは、日本人の子どもと大人を対象とし、文法的時制(過去・現在¹)が物語談話の中でどのように使われるかを調査する。また、英語を母語とする子どもの発達と比較し、類似点や相違点を明らかにする。

2. 先行研究

Berman & Slobin (1994)の第一言語発達に関する研究では、1) 知覚的な時制選択から物語的な時制選択へ、2) 絵描写的な言語使用から、物語の談話を実現するための言語使用へ、3) 個別言語の特性を生かした言語表現への発達などの知見が得られている。

3. 研究の方法

3.1 物語文、及び、被験者

言語資料は文字のない絵本(Frog, Where Are You?; Mayer, 1969)を用いて収集した口頭作話である。日本語発達の言語資料は、3歳から11歳までの日本語を母語とする子どもと成人(各年齢10名)から収集した。英語話者の言語資料は先行研究(Berman & Slobin, 1994)、及び、CHILDLES (MacWhinney, 1991)のコーパスから抜粋した。

3.2 分析方法

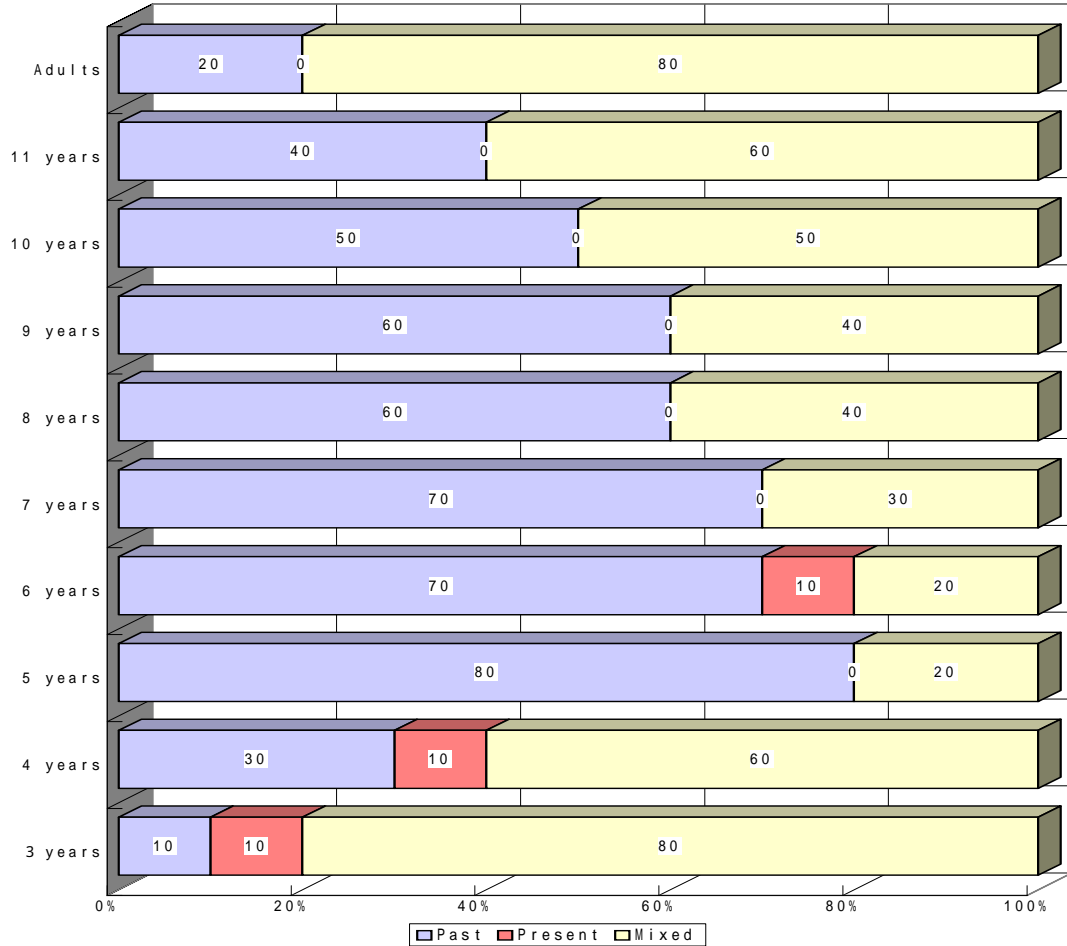
個々のテキスト(口頭作話と書き起こしたもの)の全ての文を主節の動詞の時制で過去(タ形)、非過去(ル形)に分類する²。主節の75%以上が過去形の場合を「過去優位」、主節の75%以上が非過去形の場合を「非過去優位」、その他を「混用」と定義することにする。この基準はBerman & Slobin (1994)で用いられている。

¹ 日本語の場合、現在時制を表す形態を「非過去形」として扱うことにする。

² 敬体の「～マシタノ～マス」、「～デシタノ～デス」は、それぞれ過去/非過去と扱う。

4. 結果と考察

4.1 日本語母語話者の優位時制の年齢別分布³



4.2 テキストの抜粋

1) 3歳児のテキスト[J3h]

お兄ちゃんカエルさんの犬のカエル見てる。犬とねてる。カエルさん瓶の中から出てね、おうちへ帰るんじゃない。カエルが犬とお兄ちゃんが見たらさあ、瓶の中からさあ、カエルがない。でさあ、大きい長靴はいてさあ、カエル探しに行く。瓶の中から犬がさあ、入ってる。犬があっちから落ちて、お兄ちゃんがあっちから探している。犬がさあ落ちた。で、割った、瓶。お兄ちゃんがさあ、おーいって呼んでる。

2) 5歳のテキスト[J5b]

ある日、信君とクイールが、瓶の中に入っているカエルを見ていました。夜、眠っているときに、カ

³ グラフ中の present は非過去形を表す

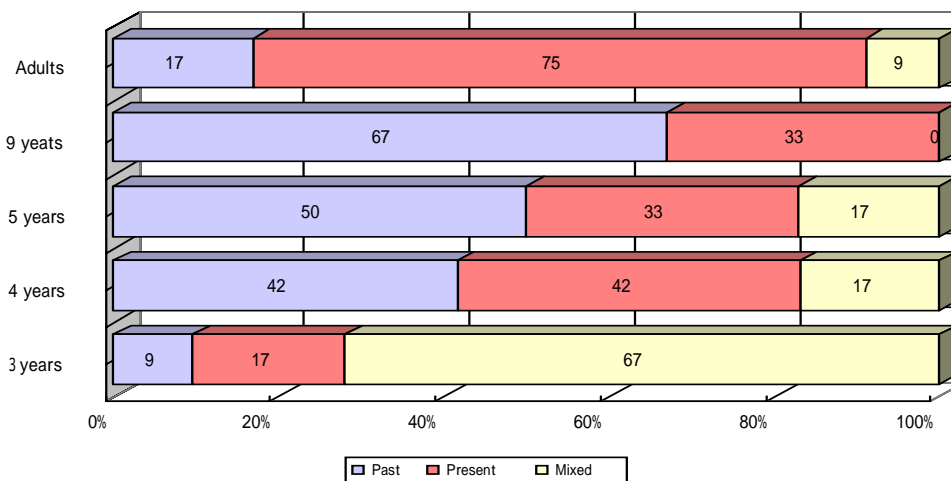
エル君が瓶の中から出て、逃げてしまいました。朝、目が覚めてみると、瓶の中にカエル君がいなかったの、心配そうに見ていました。信君は部屋の中をいっぱい探したけど、カエル君は見つかりませんでした。クイールも探したけどいませんでした。信君とクイールはドアから顔を出して探したけど、いませんでした。クイールがドアから落ちこちてしまったので、信君はドアから下りて捕まえました。信君は家から出て、クイールと信君は声を出して、カエル君を呼んでいました。

3) 11歳児のテキスト[J11b]

ある夜、信君とペロが一匹のカエルを瓶の中に入れてじいっと見ていました。その夜、信君とペロと一緒にねている時、カエル君は瓶の中から抜け出して外へ行ってしまいました。翌朝起きてみると、信君とペロはカエル君がい不见のを見てキョロキョロと探しています。ここにはいるかな。こっちにはいるかなといろいろ探しています。信君は一生懸命探しています。ペロも瓶の中にはいるかなと一生懸命探しています。ペロは瓶をくわえたまま、庭を見ています。信君は庭を、庭には絶対いると思ひ、よおく探していました。信君が下を見た時、ペロがひゅうっと具合に落ちてしまいました。カチャー。ペロが首を瓶の中につっこんだまま、瓶は割れてしまい、信君はカンカンです。

5. 英語を母語とする子どもと成人のとの比較

5.1 英語母語話者の優位時制⁴の年齢別分布



Berman & Slobin (1994;p.132)より⁵

5.2 テキストの抜粋

1) 9歳児のテキスト [E9a]

Once there was a boy who had a pet frog and a dog. And that night he was watching it. And ... when he went to sleep the frog got out of his jar and got away. The next morning { when he woke

⁴ 英語の場合は、past, present, mixed に分類している

⁵ Berman & Slobin (1994;p.132)より数値を抜粋し、グラフは筆者が作成した。

up,} he saw that the frog was gone. So he put on his clothes and the dog ... acci - accidentally got his head stuck in the jar which the frog was kept in{ it }. They called out the window, and the dog fell down, and glass jar broke, and the boy was mad at him. So they went off... to find his pet frog.

2) 成人のテキスト [E20a]

The little boy and his dog are looking at the frog, he has in the jar. It's happy, and he goes to sleep, and the frog, he's climbing out of the jar. They wake up the next morning, and he's looking for his frog, and he's not there, and he's really upset, looks like he's about to cry, and then he looks everywhere, looks in his boots. The dog looks in the jar, calls out the window, and they look everywhere, and um looks like he's getting mad at his dog, looks like he's mad at his dog.

6. まとめ

発達初期の物語文では、過去形と非過去形が混在し、物語る時制に統一性、規則性がなく、時間軸が未設定である。物語文は主に非過去を用いた絵描写ストラテジーによって語られている。認知発達や物語談話に関する知識の発達に伴い、物語には一定の時間軸が設定されるようになる。一旦時間軸が確立すると、話者は物語をさらに生き生きとした効果的なものにしようとする。そして、最終的にはその言語の大人が最も好む物語文のスタイルのへと近づいていく。この発達過程は、子どもが知覚に基づいた時制の選択から、物語談話を意識した選択へ変化するという Berman and Slobin (1994)の主張とも一致する。また、熟達した日本語の物語文では、過去形と非過去形が混在するという特徴があることが明らかになった。今後は、さらに詳しい時制の転換や他のジャンルのナラティブに関して調べる必要がある。

参考文献

- Berman, R. A., & Slobin, D. I. (1994). *Relating events in narrative: A crosslinguistic developmental study*. Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Clancy, P. M. (1985). The acquisition of Japanese. In D. I. Slobin (Ed.), *The crosslinguistic study of language acquisition* (Vol. 1: The data, pp. 373-523): Lawrence Erlbaum Associate.
- Iwatate, S. (2001). Kodomo wa doo jisei o shutoku suruka [*How do children acquire tense?*]. *Gengo*, 30(13), 78-79.
- Kudo, M. (1995). *Asupekuto tensu taikei to tekusuto: gendai nihongo no jikan to hyogenn [Aspect tense system and text: time and expressions in modern Japanese]*. Tokyo: Hitsuji Shobo.
- MacWhinney, B. (1991). *The CHILDES project: Tools for analyzing talk*. Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Mayer, M. (1969). *Frog, where are you?* New York: Dial Press.